

2020年
(令和2年)

11月17日

(第三種郵便物認可)
(昭和23年4月15日)

今号の特集

- ▷ 和洋酒特集 ④~⑥面
 - ▷ 加工米飯特集 ⑦面
 - ▷ 中京地区スパイス特集 ⑧面

— 中部飲食料新聞社ホームページ —
<http://chuin.net/> 【業界情報発信中】

好きだ



発行所
中部飲食料新聞社

名古屋市中村区名駅5-18-9
電話(052)571-7116代表
FAX(052)571-7118

東京支局

東京都中央区日本橋横山町1-4 203
電話(03)5614-7531
FAX(03)5614-7532

支那の政治とその歴史

中部飲食料新聞

日本アクセス

冷凍マザーセンター

「カープキヤンペーン」による寄託在庫削減、受託による物流削減、「パレット運用による荷降ろし時間短縮と待機時間解消」の創出効果が期待される。今後、まずはF-S(実行可能性調査)として大手メーカー10社前後限定でスタート。調査結果を踏まえ関東エリアで本稼働に移行する。さらに東北や中四国を手始めに全国展開を視野に入れる。

会(以下、国連WFPペーン)に参加、同社製品の販売を通じて売上の一部を国連WFPに寄付しWFP学校給食支援活動に役立てもらう。レッドカップキヤンペーンは、国連WFPが学校給食に使用している赤いカップのキヤンペーン。

日本酒類販売近畿北部L.C開設

森永製菓は、「食」を通じた持続可能な社会の実現に貢献するため「カオ豆」「パーム油」「紙(製品の包材)」の持続可能な原材料の調達比率100%を目指す。

同社は事業活動を通じた社会課題の解決に向け、これまでも原材料の使用やプラスチック使用量削減等の取組みを推進している。食品メーカーとして生活者、顧客に

より月に1千時間以上必要としていた手作業の時間を削減することが出来る見込みであり、経験の浅い財務経理業務職員でも照合誤りなどの人的ミスの削減につながる。

同A-Iの特徴は①過去の照合実績データと照合正解確度を活用し、売掛照合における正確性と高速性の両立②説明性の高いA-Iモデルにより、運用性・保守性を大幅に向上――の2点であり、両社は21年4月に同A-Iの本格稼動を計画する。

日本酒類販売近畿北部L.C開設

日本酒類販売は、近畿北部エリアの物流機能の強化を目的に、京都府綾喜郡の白坂テクノパーク内に「日酒販近畿北部L.C」を新築・開設した。

同センターは組織小売業、一般酒販店、業務用酒販店、料飲店向けの納品業務が可能となる汎用型高機能物流拠点。敷地面積は1万297m²、建築延床面積は1万2029m²。地上4階建て。所在地は京都府綾喜郡井手町大字多賀小字堀畑13-11。

これまでに製品包材を100%持続可能な原材料とする中長期目標を設定した。今後、「紙」については22年度までに「パーム油」は23年度までに「バイオマスプラスチック、バイオマスインキの使用やプラスチック使用量削減等の取組みを推進している。食品メーカーとして生活者、顧客に

マーケの記載された対象商品を購入した場合、Pに寄付されるもので、11年の開始以来累計110万人の子どもに学費が届けられている。同社のキヤンペーンは、象商品は「皮むきタブレット」で、参考期間は20年11月～21年10月の1年間。製品ページに記載するほか、音頭POPやホームページ、新聞などで告知する。